

幽玄

題字 高秀秀信

横浜能楽連盟
会報 No.53

平成29年3月31日

歴史の重み、庶民の力

会長 馬場 洋一



の関内・弁天通あたりに横に延びた砂州が「横浜」の地名の由来だと聞く。

昨年、横浜能楽堂は開設20周年を迎えた。建設に際し、寄付を募るなど、横浜能楽連盟も資金集めに協力した。

改めて思うのだが、10年、20年という区切りには、誰しも歩んできた道を振り返るものではないだろうか。その時、胸には様々な思いが去来する。そこで、区切りという観点から、今年の横浜のいくつかの周年々に注目してみた。

横浜発展の源を担う横浜港は1859（安政6）年開港なので、158周年。当時は久良岐郡横浜村という、100軒ほどの漁師小屋が点在する半農半漁の寒村だったそうだ。現在

更に歴史を遡ると、開港より200年近く前、現在の中区にある日枝神社（お三の宮）あたりを頂点に、中村川・大岡川とJR根岸線で囲まれる範囲は遠浅の入海だったが、1667（寛文7）年に江戸の商人吉田勘兵衛が埋め立てて35万坪に及ぶ広大な「吉田新田」を造った。ミュージカルにもなり横浜市民なら一度は耳にする「おさん伝説」が、当時の埋め立て事業の困難さを偲ばせる。これも横浜発展の基礎となった吉田新田は今年350周年を迎える。

開港から7年後の1866（慶応2）年、「豚屋火事」と呼ばれる大火で横浜の中心部は焼失するが、翌年、焼け跡の中に開港場から吉田橋までの「都市計画道路」が造られ、外国人の乗った馬車が往来した。これが、今年150周年を迎え今や観光客にも大人気のスポット「馬車道通り」の誕生である。更に1917（大正6）年に竣工したジャックの愛称で親しまれる塔を持つ開港記念会館は今年100周年を迎える。

また、横浜市が初めて区制を敷いたのが1927（昭和2）年。中・鶴見・神奈川・保土ヶ谷・磯子の5区が90周年を迎える。

ここまでは、横浜の歴史を、周年で足早に振り返ったが、そこに共通するのは、強い意志を持ったリーダーとそれを支えた名もなき庶民の存在だと思ふ。ことに、市井の人々が日々の暮らしの中で町の発展に貢献してきたことが重要ではないだろうか。こうした努力が積み重ねられ、今の横浜の街が形成されている。歴史の積み重ねとはそういう人々の営みの集大成なのだと思うと、更に感慨深い。

第32回横浜五流能楽大会

観世流 青山 圭佑

平成28年10月1日（土）、横浜能楽堂にて第32回五流能楽大会が、観世流を当番幹事として開催されました。

出演内容は、素謡14番・連吟1番・独吟6番・独鼓1番・仕舞17番で、五流競演曲は「蟬丸道行」（連吟1番・仕舞5番、観世流白謡会は囃子入り仕舞）

で合計45番となりました。また、延べ出演者数は約300名となりました。

進行状況としては、最後は予定時間内に収まりましたが、全体的に遅れ気味で、会長挨拶や速く進行した社中、遅れを想定した観世流白謡会仕舞等のおかげで無事終了いたしました。駐車場や履物の自己管理も問題なく進行しました。

見所では最後まで残られたお客様もあり、チラシ作成の効果が出たように思われます。

なお、準備段階で役謡以外にも高い椅子を要望された社中があり、久良岐能舞台から丸型の籐椅子を6個借用しましたが、少し低いとの意見もありました。今後も同様の要望が多くなると想定されますので、対応策（例えば高見台用椅子を10脚程用意する）をとることが望ましいと考えます。

また、運営本部の会計担当理事が、自分の出演時間以外は本部に詰めきりで、席を外すこともできない状況にあるという声もあり、今後は本部内の応援体制も考える必要があると思われ

ます。

番組作成の段階から当日終了するまで、各流派の取りまとめ理事の方々には多くのご協力をいただき、無事終了できましたこと、厚く御礼申し上げます。

和謡会のあゆみ

観世流 中村 薫

和謡会は、神奈川県庁謡曲部として、昭和30年4月に観世流武川和洲師を講師として発足しました。当初は個人習いのため人数はそれほど多くはありませんでしたが、昭和52年から謡曲初心者教室を開設してグループ習いを取り入れたことにより部員が大幅に増えていきました。

その後、武川師が高齢で引退され、昭和61年からは坂井音重師を謡の、小野葉満子師を仕舞の講師としてお迎えし、平成4年からは仕舞を対象とした仕舞初心者教室も開設しました。平成14年からは、健康上の理由で退任された小野師に代わって坂井音晴師にご指導いただいております。

発表会は年4回ありますが、夏の発表会では、坂井音重師と若先生方（音雅師・音隆師・音晴師）を迎えて、特に充実した時間を過ごしています。

平成17年には、神奈川県庁謡曲部50周年記念発表会を、横浜能楽堂本舞台で開催しました。番外で坂井音重師に能「羽衣」、坂井音晴師に舞囃子「高砂」を舞っていただいたこともあり、横浜能楽堂が満席となる盛況のうち、50周年をお祝いするこ

とができました。また平成27年には、60周年記念発表会を川崎能楽堂で開催しました。

当会は、もともと神奈川県庁謡曲部ということで県職員文化体育会に所属し、職員福利厚生活動の一環として神奈川県自治会館（以前は職員会館）を稽古会場に使用させていただいていますが、諸般の事情により使用できなくなり、現在は横浜能楽堂の研修室やじよいぶらざ（神奈川県婦人会館）などを主な会場としてお稽古をしています。

現在、新入会者は、謡はOBの名誉師範に3か月稽古をつけていただいていた坂井音重師の指導を受けていますが、仕舞はすぐに坂井音晴師の指導を受けています。

現在、部員数は高齢化等で減少しています。入会者は神奈川県職員（OBを含む）とその関係者ということでしたが、今は若干条件を広げています。ちなみに「和謡会」という名称は、横浜能楽連盟に加入するに当たってつけられたものです。

梅若会と私

観世流梅若会 藤村 奈都子

私の初めての能楽との出会いは、大学生の時に、実家の近所の西荻窪の神社で観た薪能でした。演目は忘れてしまいました

が、当時今で言うところの歴女だった私は、駅に貼ってあったポスターを見て「面白そうだなあ」と思ったのですが、やはり目を引く広告は大事ですよ。正直、その時はさっぱり内容がわからず、ただなんとなく「キレイだなあ」というくらいの感想しか持ちませんでした。

それから十数年がたち、「仕事以外にも何か他の世界をのぞいてみたいなあ」と思っていた矢先、大学時代の友人に「今、謡を習っているんだけど、確か和の世界に興味があったよね？一度見学においでよ」と誘われて、「謡って何だろう？」と思いつつながら気楽な気持ちでお稽古を見に行きました。すると最後に「君はいつからお稽古に来られるんだい？」と声をかけられ、それが梅若会と私との出会いとなりました。

そこから、横浜の堀内先生をご紹介いただき、仕舞も習うようになつて、早いもので5年が経過しました。初めは先生のお手本を聞いても見てもさっぱりわからず、自分には全く才能がないのでは、と落ち込む日々でした。しかし、ある時急に「誰も私にうまさを求めてはいないし」ということに気付いて開き直つてからは、お稽古が楽しくなってきました。「多少音が外れようが舞を間違えようが、

大きい声でどうしようとやること、それが由々しき問題！」と内心焦りながら、のほほんと謡のお稽古をしている自分と若い人達との間が、ものすごくかけ離れていることを感じました。どうにかこうにか「これはとても自分の手に余ることだから、機会を見つけて本職の方の舞台を観たほうが良い」と返事をしました。能について問い合わせたのは嬉しかったけれど、せっかくなので何ら応えることができず、また、舞台を観に行つたらというアドバイスも、よく考えたらおざなりだったなあ、としばらくモヤモヤしていました。能舞台は独特の雰囲気

が、大きな魅力ですが、気軽に生徒を体験に誘うには、遠い（距離が）、高い（料金が）、そして難しい（内容が）……。ところが数日後、たまたまコミュニティ新聞に演能のお知らせを見つけた。場所は一駅先の大きめの民家風建物で、和の催しをしている所です。観料金は1000円で、演目は2曲。初めて観る人がいかにも幽玄と思える曲ではないかもしれないけれど、「幽玄」は必ずしも曲の内容だけによるものではなく、能の演出の仕掛け自体によつても生じるものだと思うのです。ともかくもこれはうつつけと思ひ、さつそく先生に連

「幽玄」って？

宝生流 太田 ますみ

私は普段、小中一貫フリースクールの事務員をしています。昨春秋、8年生（中2）の担任の先生が電話をかけてきて「ねえ太田さん、急で言いにくいんだけど、幽玄ってどういう感じなのかしら？」聞いてみると、8年生は歴史で室町時代を学んでおり、能楽が大成した時代なので、その能楽の特徴とされている「幽玄」とは一体何だろうと生徒たちが言ったのだそうです。「それで、太田さんは舞をなさっているから…」要は、舞つてみてくれないかという相

談。「ちよ、ちよと待つて、それは由々しき問題！」と内心焦りながら、のほほんと謡のお稽古をしている自分と若い人達との間が、ものすごくかけ離れていることを感じました。どうにかこうにか「これはとても自分の手に余ることだから、機会を見つけて本職の方の舞台を観たほうが良い」と返事をしました。能について問い合わせたのは嬉しかったけれど、せっかくなので何ら応えることができず、また、舞台を観に行つたらというアドバイスも、よく考えたらおざなりだったなあ、としばらくモヤモヤしていました。能舞台は独特の雰囲気が、大きな魅力ですが、気軽に生徒を体験に誘うには、遠い（距離が）、高い（料金が）、そして難しい（内容が）……。ところが数日後、たまたまコミュニティ新聞に演能のお知らせを見つけた。場所は一駅先の大きめの民家風建物で、和の催しをしている所です。観料金は1000円で、演目は2曲。初めて観る人がいかにも幽玄と思える曲ではないかもしれないけれど、「幽玄」は必ずしも曲の内容だけによるものではなく、能の演出の仕掛け自体によつても生じるものだと思うのです。ともかくもこれはうつつけと思ひ、さつそく先生に連

絡しました。さて、行くかな？
早めに予約しないとあそこは小さいから席がなくなるかも…。

後日、その先生に会ったところ、「太田さん、ありがとう。行って来た」と言われました。「お席取れたんですか？」電話してね、子供が行くと言ったら優先的にお席を回して下さったみたい。お茶もごちそうになりました「良かったなあ、とひとまずほっとしました。

果たして、「幽玄」はどうだったのでしょうか。子供たちは案外能の近くにいるのかも、と感じた出来事でした。

新作「横浜風流」を観て

金春流 水野 次郎

昨年は私どもの憧れの名舞台横浜能楽堂の開館20周年でありました。それを記念して、6月11日、「翁」の上演と共に狂言方大蔵流の人間国宝、山本東次郎師による新作「横浜風流」も初演されました。幸いにもその折観劇の機会に恵まれましたが、その日の感動は、1年余を経た今日もなお心に深く刻まれています。

まず「翁」は、梅若玄祥師による「とうとうたらり…」の謡から始まり、天下泰平・五穀豊穰を寿ぐ舞があり、神事的な彩りをも十分に感じさせて、時代

を超えた能舞台を観せていただきました。続いて、狂言方による三番三に山本東次郎師が登場。面は梅若六郎家所蔵の「黒式尉」をつけ、鈴を振りながら舞う「鈴の段」は、その鈴の音と舞の床を踏む音の絶妙なりズムに酔いしれました。

次の「横浜風流」では、相模国の大山祇ノ神（山本則重師）が山本東次郎家所蔵の「大登髭」の面をつけ、名峰富士山におわす息女の花開耶姫（山本凜太郎師）を伴い登場。姫には「乙御前」なる面がつけられており、それはふくよかな表情の若々しい女性の狂言面でした。やがて大山祇ノ神と木花開耶姫の二神が舞を重ねるうちに、謡の中に聞き慣れた「横浜市歌」が織り込まれていることに気づきました。「我が日の本は島国よ、朝日かがよう海に…」と、10名の地謡が橋掛りに一列に並んでまさに斉唱。横浜市民が日頃折に触れて愛唱している森鷗外作の市歌が、歴史を超えて格調高く、耳にする人々の心に刻み込まれたのではないかと思います。横浜能楽堂のいよいよの繁栄と横浜市民の幸せを永久に伝えんと神々に託されて「横浜風流」を作られた山本東次郎師の思いが、観る人々を十分に浮き立たせたと感じました。

「いよいよ栄えんこの能楽

堂よ、永久に伝えんこの芸道と誓い新たに三番申楽、舞い納むるこそ目出度けれ」と、謡と共に二神は「繁栄と芸道成就」を約し、橋掛りを舞い続けて揚幕の内に入られました。

私は、新たな年を迎えた今こそ、品格・文化における横浜の未来のために、「風流」の心を育てたいと思っています。

お能を十倍楽しむ

喜多流 西 宏子

昭和から平成に元号が移った頃、横浜市の広報で五流各派の謡と仕舞教室の募集記事が目が止まり、1年近く迷った末、ようやく申し込んだのが、私とお能との出会いの第一歩となりました。教室は磯子区の久良岐能楽堂、月3回の講習で始まりました。当時港南区に住んでいながら初めて訪れた能楽堂は、緑深い森林に囲まれ、静寂で趣ある佇まいに心組み、門をくぐったことを記憶しています。

簡単な入講式の後、即仕舞の稽古に入りました。初めて能舞台を踏み、「湯谷」の一節を先生の型に合わせて運ぶのは、思いの外難しいことでした。次にまた即謡の稽古に入り、朗々と響き渡る出雲康雅先生のお声に圧倒されるばかりで、謡本の文字を拾い読むのが精一杯。終了

の礼にはっとしたのが初日の感想でした。能を理解し楽しむはずの意気込みは次第に遠ざかり、場違いな選択をしたように思ったものです。熱心な方の意欲に感心するばかりで、ただ通うだけで力尽きる私は、最後列の席で身を細め取り柄のない受講生でした。簡単に申ししますと落ちこぼれということになります。

それでも、ただ先生の教えを忠実に守ることのみを念頭に時が過ぎ、何とか2年、3年と今に至っています。これは先生の常に大らかなご指導と、先輩方の温かい励ましや友情の賜物と、心より感謝致しております。お仲間も次第に増え、一緒に国立や目黒の能楽堂に通うほか、地方の催事にも出掛けるようになり、最初の目標「十倍楽しむ」ことは充分達成できております。宮島の桃花祭では朝から夕方までお能三昧に過ごします。中尊寺や彦根城の薪能はいつまでも余韻が残る旅で、十倍の域以上のものがありました。

このように楽しいことばかりの中にも、私達グループにボランティアで小鼓を教えて下さった多摩子先生との辛いお別れもありました。折に触れめぐる思いに師の影を追い、そのご恩の重みを今更に受け止めております。條々のうちに八十路の坂を越え、残る日々が一番でも多く

能を楽しみつつ、稽古ではもうしばらく、社中の皆様と共に席に連ねさせていただきたいと願う新年でもあります。

謡曲と出会って

金剛流 道明 辰雄

私が謡曲と出会ったのは、先輩に強引に誘われ、会社の謡曲部に入部した平成9年である。

IHI横浜謡曲部は、昭和40年に発足し、多くの先輩達に引き継がれ今日に至っている。謡曲部は、東京・武蔵・横浜の3地区にあり、毎年合同で発表会を開催して諸先輩・流友の方々と交流を図っている。

さて、入部時に渡された部の紹介には、謡曲の効用として、
一、行かざして 名所を知り
二、習わずして 歌道を識る
三、詠まずして 花月を望む
等々「謡曲の十五徳」が書かれていた。謡曲には、旅をして名所旧跡を巡り、和歌を詠んで、古人（いにしえびと）の幽霊や草木の精霊と出会う往時の様子を聞く物語が多い。確かにこの「十五徳」は謡曲についてよく当てはまり、言い得ている。
また、雑誌「能楽」からの抜粋「謡曲べからず集」には、
一、口塞いで謡うべからざる事（不明瞭に謡うな）
二、口先ばかりにて謡うべから

ざる事(腹から声を出して謡え)等全17項目の心構えと戒めが書かれ、明治時代に書かれたものだが、現在も稽古でよく言われている事ばかりである。

IHI横濱謡曲部は、これまでOBの和田完一氏の指導を受けている。稽古では、まず和田先生が模範謡いをし、その後全員で謡う。次にお役を割り振り、1回につき2曲か3曲を稽古する。発表会が近いと、多い時は4曲くらいを稽古する。

私も入門当初は、謡本のゴマ(節)の扱いが解らなかつた。上中下音も一定せず、自信がな

いたため声が小さい。見かねた先輩に昼休みに稽古をつけてもらったこともあった。その後、平成15年頃からは、部の中に併設されていた仕舞教室にも参加することとなった。仕舞を習ったことで、役柄の違いによる謡い方や所作が実感でき、謡の参考にもなった。

なお、私は現役を離れるまで謡曲部及び仕舞教室の、取りまとめと世話役を長年担当してきたが、現在は現役部員に引き継いでいる。

縁あって始めた謡曲。いつかは「幽玄の世界」に浸って、謡

いたい、楽しみたい。そして稽古後の一杯も楽しみたい。

謡曲と私

下懸宝生流 堀本 邦廣

私が初めて謡曲を耳にしたのは、子供の頃に見た時代劇の中でした。月明りに照らされた白壁の通りを黒頭巾の武士が悠然と歩きながら謡う姿は、子供心にも強く印象に残りました。その後時を経て、従弟の結婚式で能楽師の方が謡う「高砂」や祝いの席で幾度か聞いた「鶴亀」、また靖国神社で観た奉納能舞台

などで、徐々に謡曲の荘厳さ、艶美さ、重厚さに惹かれていきました。

退職後、長年の夢だった「謡曲を謡ってみたい」との思いが湧き上がり、セカンドライフを悔いないものにとの思いと重なって、謡曲入門講座に参加しました。下懸宝生流藤田先生と出会って、初心者歓迎とのことでした。つそく峰謡会に入会しました。

しかし「すき」と「する」のは大違いで、謡特有の声が出ない、謡本の符号が読めない、と四苦八苦し、何度か挫折そうになりましたが、藤田先生の情熱と迫力ある謡声に惹かれると共に、穏やかな口調で丁寧な指導をいただき、更には先輩諸兄の手助けもあり、瞬く間に3年半が経ちました。今春の横浜五流交流のつどいでは「兼平」のシテ役をいただいております。目下ツヨ吟の稽古に励んでいます。

ました。

稽古場は厳かな雰囲気漂う能舞台で、その威容に圧倒され感嘆しながらも、気を引き締め「忠度」と「羽衣」のお稽古をつけていただきました。欣也先生のハリのある澄んだ声が響き渡り、その迫力に強く感動を覚えました。

しばらく歓談して先生の温かい人柄も感じ、その上貴重な下懸宝生流小謡集を記念にいただいて、忘れ難い一日となりました。この体験を稽古の糧とし、今後とも精進していくことを心に誓ってお宅を後にしました。

能楽堂だより

29年4月〜29年9月の公演案内

29年4月以降の公演予定は、次の通りです。

このほか毎月第二日曜日に普及公演「横浜狂言堂」夏休みに親子向け狂言会を開催いたします。

特別公演

5月20日(土) 午後2時開演

狂言「舟渡聲」(和泉流) 野村萬

能「江口」(観世流) 浅見真州

S席七千円/A席六千円/B席五千円

チケット発売中

第65回横浜能

6月17日(土) 午後2時開演

能「養老」(観世流) 梅若紀彰

替間「薬水」(和泉流) 野村又三郎

S席四千元/A席三千五百円/B席三千元

チケット発売中

普及公演「人間国宝が案内する能の名曲」

7月2日(日) 午後2時開演

お話 梅若玄祥

狂言「寝音曲」(和泉流) 野村万作

能「土蜘蛛 勤入さ、蟹」(観世流) 梅若玄祥

S席四千元/A席三千五百円/B席三千元

チケット発売日: 4月22日(土) 正午から

(初日は電話・WEBのみ)

山田検校没後二百年企画公演

「芸の縁 山田流と宝生流」

9月18日(月・祝) 午後2時開演

新作 箏・萩岡松韻/舞・宝生和英

箏曲「長恨歌曲」山勢松韻

能「楊貴妃 玉簾」(宝生流) 武田孝史

S席七千円/A席六千円/B席五千円

チケット発売日: 6月10日(土) 正午から

(初日は電話・WEBのみ)

◎連盟後援行事

「第36回面友会能面展」 3月23〜28日・馬車道アートギャラリー/「第124回海謡会例会」 4月1日(土) 横浜能楽堂本舞台/「横浜宝生流連合会第30回謡曲大会」 8月26日(土) 横浜能楽堂本舞台/「横浜金剛会第19回謡曲と仕舞のつどい」 8月27日(日) 横浜能楽堂本舞台 ※入場無料

◆編集後記◆
今号では特別ページを設けて連盟所属団体についてご紹介します。過去にお稽古していたり、再開したいと思つていたり、お稽古はしているが同好会にも入つて謡いたいという方、また、新しく始めたいと思つている方は、ぜひ、連絡先(不明の場合は事務局へ)までお問い合わせください。まず見学してみるのもよいかと思います。

横浜能楽連盟連絡先

◎事務局 倉藤

TEL045-1835-1361

◎横浜能楽堂

TEL045-1263-3050

能楽連盟所属団体一覽

横浜能楽連盟に現在加入している44の団体に実施したアンケート結果を抜粋してご紹介いたします。
 《項目》名称①代表者(連盟名簿登録上の代表者)②現在の会員数③会の形態(同好会・同門会等)
 ④指導者⑤主な活動⑥主な活動場所⑦入会希望者受付可能かどうか⑧会の歴史・特徴など

●観世流●

◆「扇謡会」

①井實昭子

◆「富久謡会」

①尾崎雅子

◆「一謡会」

①大木和道

③同門会

④酒井純一郎(能楽師)

⑤稽古(月3回)・例会(年2回)

⑥横浜能楽堂・師の個人宅

⑦入会歓迎

《大木・B045(341) 7318》

⑧昭和63年創設。

◆「横浜高砂会」

①石田榮男

◆「和謡会」

①畠山利子

②41名

③謡と仕舞の同好会

④謡……坂井音重(能楽師)

仕舞……坂井音晴(能楽師)

⑤稽古(謡は月2回土曜、仕舞は月2回土曜と木曜)、発表会(年4回、師の大会にも参加)

⑥稽古…横浜能楽堂研修室等、発表会…横浜能楽堂・久良岐能舞台・川崎能楽堂

⑦入会歓迎《和謡会ホームページ・畠山B045(843) 7396》

⑧「幽玄」今号記事にて紹介。

◆「幸謡会」

①高岡幸彦

②8名

③同好会

④高岡幸彦(名誉師範)

⑤稽古・例会、及び磯子文化協会大会等に出演

⑥稽古…大岡センター・磯子センター

⑦入会歓迎

⑧20年程前、故田辺竹生師から初心者指導を依頼され設立。

◆「つづき謡曲会」

①長谷川武雄

②27名

③同好会

④長谷川武雄

⑤稽古(月2回)・発表会(年5回)

⑥稽古…中川西地区センター・仲町台地区センター、発表会…都筑民家園等

⑦入会歓迎(初心者も可)

《HP: <http://h-tuduki.com/> 事務局名畑B045(532) 9895》

⑧平成8年設立し20周年を迎える。

「幽玄」52号記事にて紹介。

◆「海謡会」

①横山哲夫

◆「雅謡会」

①大友勝利

②22名

③同好会(指導者あり)

④園田潔

⑤例会(月1回各月最終金曜)・稽古会(月2回)

⑥横浜市南センター・フォーラム南太田

⑦入会歓迎

《大友B045(783) 0568または林

野B045(741) 1932》

⑧昭和54年南センターの伝統芸能活動の一環として発足し、毎月の例会は400回を超える。

◆「一床会」

①小田切威

◆「霜月会」

①菅原秀子

◆「梅鶯会」

①吉丸朝久

◆「観岡会」

①園田義雄

◆「白謡会」

①青山圭佑

●観世流梅若会●

◆「宏枝会」

①堀内万紗子

②16名

③お稽古会

④堀内万紗子

⑤稽古・合同発表会(年1回)

⑥堀内宅

⑧以前も教室はあったが45年程前に梅若恭行師の梅安会より一文字

いただいて発足。

◆「宏声会」

①山口恭江

②5名

③同門会の一部会員

④梅若長左衛門(能楽師)

⑤稽古・発表会

⑥稽古…師の自宅、発表会…梅若能学院会館等

⑧昭和50年頃創設の故高橋則子師

の社中で、会員はその後梅靖会に入門しているが、会の名前を残したいと存続している。

◆「梅靖会」

①中戸史子

②2名

③玄人の同門会

④梅若長左衛門(能楽師)

⑤稽古・発表会

⑥師のお稽古場

⑦入会歓迎

《中戸B045(773) 2473》

◆「宏英会」

①桑原弥兵衛

②8名

③同好会

④稽古

⑤自治会館

◆「横浜梅若連合会」

①堀内万紗子

②横濱を中心とした梅若会の連合会(特に活動はしていない)

◆「晃颯会」

①山本晃嗣

②7名

③同好会

④山本晃嗣

⑤稽古(月2回)・発表会(年1回)

⑥稽古…すすき野中学校の空き教室

⑦入会歓迎

《山本B045(902) 2526》

◆「眞謡会」

①吉丸朝久

●宝生流●

◆「横浜宝生流連合会」

①服部雅夫

②91名

③同好会

⑤例会(月1回第4土曜)・大会(年1回8月)

⑥例会…横浜能楽堂第2舞台、大会…横浜能楽堂本舞台

⑦入会歓迎

《服部B046(88) 2040》

⑧横濱近隣で宝生流の稽古をする流友の会。昭和63年設立。

◆「宝友会」

①小林美佐子

②5名

③同好会

④小林美佐子(教授嘱託)

⑤稽古・宝生流大会等に出演

⑥稽古…小林自宅

◆「架雲会・横浜」

①山添富士子

②10名

③同門会の一部

④高橋章(能楽師)

⑧横濱近隣の高橋師門下生で構成され、宝生流大会等に出演。

◆「宝生流教授嘱託会

神奈川支部」

①吉田澄夫

②52名

③同好会

⑤例会(月1回第3日曜)・大会(年3回)

⑥例会…横浜能楽堂第2舞台、大会…横浜能楽堂本舞台等

⑧全国組織である教授嘱託会の県支部。月例会は580回を超える。全国大会・地区大会にも参加。

◆「鎌倉宝生会」

- ①坂井善朗
- ③同好会

◆「宝円会」

- ①北見康成
- ②21名
- ③同門会
- ④前田親子(能楽師)
- ⑤稽古(月3回)・大会(1回毎年11月)
- ⑥稽古:久良岐能舞台他2か所、大会:久良岐能舞台
- ⑦入会歓迎(初心者も可)
- 《北見045(826)1138》

◆「逗子宝生会」

- ①服部雅夫
- ②15名
- ③同好会
- ⑤例会(月1回第1日曜)
- ⑥松汀園(逗子市内)
- ⑦入会歓迎
- 《服部0466(88)2040》

⑧戦後間もなくの設立。来年例会は800回を迎える。

◆喜多流

- ◆「洋謡会」
- ①馬場洋一
- ②3名
- ③同好会
- ④友枝昭世(能楽師)
- ⑤稽古(月2回)・横浜喜多会(6月)等大会に出演(年2回)
- ⑥稽古:海洋会館会議室、例会:久良岐能舞台
- ⑧昭和62年、当時連盟理事の故浦部氏により設立。友枝師の謡謡会と合併するも名称は「洋謡会」を

存続。

◆「浜友会」

- ①大館輝雄
- ②9名
- ③企業内同好会
- ④友枝昭世(能楽師)
- ⑤稽古(月2回)・横浜喜多会大会等に出演
- ⑥稽古:会社の会議室

◆「湘南安信会」

- ①松永次郎
- ②4名
- ③同門会の一部
- ④内田安信(能楽師)
- ⑤横浜喜多会大会等に出演
- ⑧湘南地区の内田門下生で構成され、大会に出演。

◆「出雲会」

- ①栗野稔
- ②41名
- ③同門会
- ④出雲康雅(能楽師)
- ⑤稽古(個人及びグループで月2回)・発表会(年2回)
- ⑥稽古:横浜能楽堂等、発表会:横浜能楽堂本舞台
- ⑦入会歓迎
- 《栗野045(864)6328》
- ⑧平成10年に第1回発表会を開催。今年で37回を数える。横浜喜多会にも所属し大会に出演。

◆「籐謡会」

- ①伊藤節子
- ②5名
- ③同好会
- ④伊藤節子(謡教授舞教室)
- 友枝昭世(能楽師)
- ⑤友枝師の夏の稽古会と秋の発表会に参加

- ⑥喜多能楽堂・友枝舞台
- ⑧平成10年「横浜市民のための謡曲教室・喜多流」として発足。その後希望者は友枝門下となる。

◆金剛流

◆「H-I文化体育会」

- ①道明辰雄
- ③企業内同好会
- ⑧「幽玄」今号記事にて紹介。

◆「横浜金剛会」

- ①豊増清明
- ②110名
- ⑧「幽玄」50号記事にて紹介。

◆「金剛流久良岐会」

- ①松井美奈子
- ②60名
- ③同門会
- ④熊谷伸一・真知子(能楽師)
- ⑤稽古・発表会(年2回)・参加団体の大会等に出演。
- ⑥稽古:久良岐会稽古場(日ノ出町)等グループごとの稽古場、発表会:久良岐能舞台等
- ⑦入会歓迎(初心者も可)
- 《熊谷046(873)8224》
- ⑧平成5年設立。「幽玄」52号記事にも紹介。

◆「豊友会」

- ①倉藤睦子
- ②15名
- ③大学謡曲部OB及び豊嶋師門下生による同好会
- ④豊嶋三千春(能楽師)
- 大学OBの能楽師・師範
- ⑤「横浜金剛会」に所属し大会等に出演。また各地の謡曲会・全国大学OB会等に出演。

◆金春流

◆「春日会」

- ①設楽友里子
- ②15名
- ③同好会
- ⑤月1回程度の例会
- ⑥杉田地区センター

◆「面の会」

- ①岩崎久人
- ②15名
- ③面打教室
- ⑤面の展示会(年1回)
- ⑦面打教室参加者歓迎
- 《岩崎 磯子区森3-19-7》
- ⑧岩崎個人は春巳会に所属し、守屋師の指導を受けている。自作の面でも舞っている。

◆「高砂やを謡おう会・都筑」

- ①二宮倫行
- ②10名
- ③同門会
- ④二宮倫行
- ⑥遊山房(都筑区中川)
- ⑦入会歓迎(初心者も可)
- 《二宮045(913)2725》
- ⑧1995年に初めて開催した「ついでにの丘薪能」(実行委員長二宮)をきっかけに立ち上げた稽古会。

◆「春綱会」(綱雄会改め)

- ①山井綱雄
- ②30名
- ③同門会
- ④山井綱雄(能楽師)
- ⑤稽古・練成会・発表会
- ⑥関内ホール
- ⑦入会歓迎(初心者も可)
- 《山井09047569548》

◆下懸宝生流

◆「火謡会」

- ①藤田忠弘
- ②21名
- ③同好会
- ④宝生欣也(能楽師)
- ⑤稽古・例会・発表会
- ⑥稽古:港区区民センター、発表会:小竹能舞台(先生宅)・矢来能楽堂・横浜能楽堂
- ⑦入会歓迎《インターネット上で公開中》
- ⑧昭和38年頃早稲田大学謡曲部OBが故宝生閑師に指導をお願いして設立。

◆「峰謡会」

- ①藤田忠弘
- ②14名
- ③同好会
- ④藤田忠弘(師範)
- ⑤稽古(2教室各月2回)・発表会(年1回)
- ⑥地区センター・自治会館
- ⑦入会歓迎(初心者も可)
- 《藤田045(832)1844》
- ⑧2008年自治会同好会として発足。

◆「面友会」

- ①渡辺松霜
- ②39名
- ③能面彫刻教室
- ④渡辺松霜
- ⑤能面彫刻指導
- ⑥上大岡第2町内会事務所
- ⑧1975年頃父が創設した教室を引き継ぐ。今年37回目の展示会を開催。